

中学生のみなさんへ

TOEFL Primary[®]と 学校の授業、家庭学習にどう取り組むか —ライティング編—

大阪教育大学 英語教育部門 准教授
ETS公認TOEFL Primary[®] / TOEFL Junior[®] トレーナー
一般社団法人 国際教育英語試験協会 アドバイザー
篠崎 文哉

TOEFL Primary[®]ライティングテストの形式

対象	英語学習者 初級レベル (TOEFL Primary [®] 受験レベルの方)
受験方式	CBT (Computer Based Testing) …パソコン・タブレットを使用した試験方式
設問数	19問
試験時間	30分
スコアレンジ	0～17
スコアレベル	🌟 ～ 🌟🌟🌟🌟
CEFR	A1未満～B1
採点	人工知能 (AI) 機能を備えた自動採点エンジンを使用してETSが採点
問われる能力	Build a Sentence(文章を作る)
	Write a word (単語を書く)
	Edit a Text (文章を編集する)
	Write a Story (物語を書く)

© 2017 Kumon Institute of Education Co., Ltd. (<https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/primary-writing/#about>)

目次

1. はじめに	p.2
2. TOEFL Primary® Writingについて	p.2
2.1. Write a Word	p.3
2.2. Build a Sentence	p.4
2.3. Edit a Text	p.5
3. スコアレベル1向け学習法	p.6
3.1. Write a Word (語彙選択とスペリングのトレーニング)	p.7
3.2. Build a Sentence (語順理解と構文力の育成)	p.7
3.3. Edit a Text (語句選択と文法修正の導入)	p.7
4. スコアレベル2向け学習法	p.8
4.1. Picture Story Writing (絵を見て文をつなげる練習)	p.8
4.2. Sentence Expansion (単文を広げて段落へ)	p.8
4.3. Connect and Complete (文の順序づけと補完)	p.8
4.4. Guided Paragraph Writing (フレームを使った段落練習)	p.9
5. スコアレベル3向け学習法	p.9
5.1. Short Story Writing from Prompts (状況提示からの物語作成)	p.10
5.2. Sentence Combination Practice (文のつなぎ方トレーニング)	p.10
5.3. Guided Story Sequencing (並び替えから物語へ)	p.10
5.4. Topic Writing with Visual Aids (視覚支援を用いた段落構成)	p.11
6. スコアレベル4向け学習法	p.11
6.1. Structured Paragraph Writing (段落構成を意識したライティング)	p.11
6.2. Narrative Expansion (短い物語を広げる練習)	p.12
6.3. Connectors in Context (接続語の実践的活用)	p.12
6.4. Functional Writing (目的を持った実用文練習)	p.12
7. 学校での授業との関連	p.13
8. おわりに	p.14

1. はじめに

TOEFL Primary® Writingは、英語で「書く」力を測るテストです。主に小中学生を対象としており、視覚的な情報やシンプルな設問をもとに、短い英文を書く形式となっています。適切な学習を積み重ねるこ

とで、着実に力を伸ばすことができます。本稿では、TOEFL Primary® Writingのスコアレベルごとに、学校や家庭でどのような学習を行えばよいかを詳しく紹介します。

2. TOEFL Primary® Writingについて

まず、TOEFL Primary® Writingがどのようなテストなのか確認しましょう。ウェブサイト(<https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/primary-writing/#about>)によると、TOEFL Primary® Writingは、英語を学び始めたばかりの小中学生を対象に、世界標準で「書く力」を測定する初級レベルのライティングテストです。ETSが「TOEFL®ファミリー」として開発しており、子どもたちが初めてグローバルな英語テストに挑戦するファーストステップとして設計されています。

CBT形式(コンピュータ／タブレット入力)で実施され、全19問で所要時間約30分です。問題は以下の4タイプで構成されています。

Write a Word：単語を書き写す問題

Build a Sentence：一文を作る問題

Edit a Text：文章を編集する問題

Write a Story：簡単な物語を作成する問題

TOEFL Primary® Writingでは、「どれくらい英語で書けるか」を、0点から17点のあいだでスコアとして出します。このスコア

は、CEFRという国際的な指標を参照すると、最も易しいレベル(A1未満)から、少し難しいB1レベルまでの間に当てはまります。

テストの答えは、人が読むのではなく、ETSという団体が作ったAIが自動で採点します。そのため、すぐに結果を得ることができます。

テストの結果(オフィシャルスコアレポート)には、主に以下の3つが含まれています。

1. スコアレベル(リボンの数)

実力に応じて、1～4個のリボン(バッジ)がつきます。リボンが多いほど、英語で書ける力があるということです。

2. できることの説明

「どんな英語が書けるか」を、分かりやすく文章で教えてくれます。たとえば、「簡単な文を3つ書ける」「理由を入れて説明できる」などです。

3. 学習アドバイス

「次はこんな練習をしてみよう」といった学習のアドバイスも書いてあります。今の自分に合った目標を立てやすくなっています。

各レベルでは、どのようなことができる
とされているかを以下のように簡単にまと
めました(詳細は[https://www.toefl-junior-
primary.jp/wp-content/themes/kumon/
assets/pdf/primary_writing_descriptors.pdf](https://www.toefl-junior-primary.jp/wp-content/themes/kumon/assets/pdf/primary_writing_descriptors.pdf)
を参照)。

【スコアレベル1】

特徴：学習者は、単語や簡単なフレーズを
使って、身近な状況を説明することができ
ます。また、音韻の知識を活用しながら、
基本的な構文構造を用いて文を作ることが
できます。

語彙・文法：学校や家庭での活動、訪れた
場所などを、単語やフレーズで表現する力
が身についています。

【スコアレベル2】

特徴：学習者は、身近な物や場所、日常生
活について簡単に説明することができます。
学校や家庭での活動について、一般的な単
語を使って短い物語文を書くことが可能で

語彙・文法：短く簡単な文をつなげて文章
を作ることができ、“and,” “then,” “but,”
“first,” “next,” “finally”などの接続語を使っ
て、一貫性のある表現が可能です。

【スコアレベル3】

特徴：学習者は、身近な状況を描写するこ
とができ、衣服、体の部位、動物、学用品
などの語彙を使って、日常的な動作や物に
ついて説明することができます。

語彙・文法：複数の文を使って一貫性のある
短い物語文を書くことができ、“and,”
“then,” “but,” “first,” “next,” “finally”などの
接続語を効果的に用いることができます。

【スコアレベル4】

特徴：学習者は、日常の幅広い行動や物に
ついて、詳細を含む短い文で一貫性のある
説明を行うことができます。

語彙・文法：“and,” “then,” “but,” “first,”
“next,” “finally,” “after”などの接続語を用い
て、ほとんどの文で正しい構文、語彙、文
法形式を使い、大文字や句読点も適切に使用
できます。

こ こ か ら 、 TOEFL Primary®/
TOEFL Junior® 公 式 ウ ェ ブ サ イ ト
([https://www.toefl-junior-primary.jp/
guid/primary-writing/](https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/primary-writing/)) で公開されているサ
ンプル問題を解きながら解説していきたい
と思います。

2.1. Write a Word

Directions

Meet Sarah, Kelly, and Lucas. Their school day is over. You are going to write about what Sarah, Kelly, and Lucas do after school.

Select **Next** to go on.



Sarah Kelly Lucas

まず、どういう場面や指示かを確認しま
す。ここでは、“Meet Sarah, Kelly, and
Lucas. Their school day is over. You are
going to write about what Sarah, Kelly,
and Lucas do after school.”と書かれていま
す。「サラ、ケリー、ルーカスを紹介しま
す。彼らの学校の一日は終わりました。こ
れから、サラ、ケリー、ルーカスが放課後
に何をするかを書きましょう。」といった
具合です。

Look at the picture. Then type the missing word in the sentence.



Sarah puts her books on her

d	e	s	k
---	---	---	---

.

次の画面に進むと、単語を入力するようになっています。ここでは、“Sarah puts her books on her _ _ _ _.”とあり、4文字の単語を入力します。画面に映し出されている絵を見ながら文を読み、Sarahが何をしているのかを理解する必要があります。

このタイプの問題では、ライティングに必要な複数の力が統合的に測定されています。

まず重要なのは、文脈に合った語彙選択力です。この文には「Sarah が本を置く」という明確な状況設定があり、学習者はその意味を読み取ったうえで、「机(desk)」や「棚(shelf)」のように、文の内容にふさわしい語を自然に連想できる必要があります。

次に問われるのは、スペリング(つづり)の正確性です。たとえ正しい意味の単語を思いついても、4文字で正確に書けなければ得点にはつながりません。これは「意味の理解」に加えて、「つづりを記憶し再生する語彙力」が求められることを意味します。

さらに、文法的な感覚(品詞の判断)も不可欠です。空欄に入る語は名詞であるため、“desk,” “room,” “bags”のように、文法的に自然な名詞を選ぶ必要があります。もし動詞や形容詞などを入れてしまえば、文の構造理解が不十分であると判断されます。

加えて、ライティングの基本スキル(書く意識)として、完成文における細部への注意力も試されます。たとえば、“on her desk.”は意味が自然ですが、“on her dogs.”と書くと意味が通らず、文脈にそぐわない表現になります。このように、冠詞や単数・複数の使い分けといった細かな要素も、より正確な英語表現に必要です。

このように、この一見シンプルな問題の中には、「文の意味を読み取り、ふさわしい語を正しい形で書く」という、ライティングの土台となる総合的な力が凝縮されているのです。

2.2. Build a Sentence

Directions

The friends are going to play a computer game together. Let's write about what they do.

Select **Next** to go on.



さきほどと同様に、まず場面・指示を確認します。ここでは、“The friends are going to play a computer game together. Let's write about what they do.”とあります。

「友達と一緒にコンピューターゲームをするつもりです。彼らが何をするのか書いてみましょう。」といった内容です。

Look at the picture. Then select the words in the correct order to write the sentence.



The	children			
rules			the	read

.

次の画面に進むと、文を作るために単語を並べ替えるようになっていきます。英文の基本的な作り方が身についているかが問われます。

まず、この問題では英語の基本語順である「主語＋動詞＋目的語(SVO)」の理解が求められます。たとえば、“Children read the rules.”のように、自然で文法的に正しい文を構成するには、どの単語が主語で、どれが動詞や目的語かを見極める構文認識能力が必要です。

加えて、それぞれの単語の品詞を見分ける判断力も重要です。たとえば、“children”や“rules”は名詞であり、“read”は動詞であることを理解し、それぞれを文中の適切な位置に配置する力が問われます。また、定冠詞“the”が複数含まれている場合には、それぞれの名詞に自然な形で冠詞をつける判断も必要となります。

さらに、視覚情報を活用する力も試されます。問題には絵が提示されており、受験者はその絵から「何が起きているのか」「誰が何をしているのか」を読み取り、それに対応する英文を構成しなければなりません。絵と文章の内容が一致しているかどうかを自分で判断するためには、状況を正確に把握する力と意味理解力が求められます。

また、正しい語順を見つけるには、単語の並び方によって文の意味が大きく変わることを理解し、いくつかの並べ方を試しながら意味の通る文を作る必要があります。これにより、自己修正力や注意力といったライティングに必要な力も育まれます。

このような語順並べ替え問題は、文法力だけでなく、「意味をもって書く力」や「絵と言葉をつなげる力」といった、実際

のライティングに不可欠な基礎スキルの育成にもつながります。初級者にとっては、自然な語順を体感しながら文を構成する良い練習になり、「読む」「見る」「考える」「書く」という言語活動を統合的に行うことができるため、授業でも鍛えやすい形式だと思います。

2.3. Edit a Text

Directions

Kelly wrote about someone from history, and she needs some help with her writing. For each box, select the correct word or phrase. You have 3 minutes to complete this part.

Select **Next** to go on.

この問題形式では、絵はありません。場面・指示としては、ここでは、“Kelly wrote about someone from history, and she needs some help with her writing. For each box, select the correct word or phrase. You have 3 minutes to complete this part.”(ケリーは歴史上の人物について書きましたが、その文章に手助けが必要です。それぞれのボックスについて、正しい単語や語句を選びましょう。このパートは3分以内に終わらせてください。)となっています。

Ralph Baer is called the father of video games. Baer

☐ working
☐ worked
☐ will work

 as an inventor.

In the 1960s, he had an idea

☐ at
☐ by
☐ for

 television sets. Television was very popular

In the 1960s, and Baer believed

☐ that
☐ which
☐ how

 people could do more with television than

just watch shows. Baer built a machine that put a small, round dot on a television

screen. Baer used the machine

☐ moves
☐ to move
☐ because moving

 the dot on the screen.

This was the beginning of video games.

この問題は、TOEFL Primary® Writingにおいて、学習者の書く力を多面的に測るタイプの設問です。具体的には、与えられた英文の一部を修正・完成させる形式を通じて、次のような力が関係しています。

まず重要なのは、語彙力と文脈理解力です。文章全体の意味を踏まえたうえで、正しい語句や表現を選ぶ必要があります。たとえば、主語に合わせて代名詞や動詞の形を変える、時制を統一するなど、内容と文法の両面から自然な文に仕上げる判断が求められます。

次に、英文構造や文法の知識も不可欠です。主語と動詞の一致(S-V一致)、前置詞の選択、語順など、基本的な文法項目が適切に使われているかが問われます。これは、自分の文章だけでなく、他者の文を見直す力にも直結します。

また、この問題は他者の文章を修正する形式であるため、「客観的に文章を読む力」「間違いに気づく力」「より適切な表現に直す力」といった、いわゆるリビジョン力(見直し・編集力)も測定されています。これは、実際に自分の文章を書くときにも重要な力です。

さらに、3分という制限時間内で複数の設問に対応しなければならないため、素早く読み取り、適切に判断するスピード感と集中力も求められます。

このように、この設問では単なる語句の選択にとどまらず、文脈理解力・文法運用力・編集力・処理スピードといった、ライティングに必要な基礎的かつ実践的な力が複合的に試されています。これは書くことを支える重要な土台であり、初級者がライティング力を伸ばしていくうえで非常に意義深い練習形式と言えるでしょう。

次項から、スコアレベルに応じた練習法について紹介していきます。ただし、それぞれの練習には教材が必要です。市販の教材が充実してくると、そちらを利用の方がよいかもしれませんが、ここから紹介する練習法については、ChatGPTなどの生成AIに、練習したい問題の概要をコピー&ペーストし、「同様の問題を作ってください」などと指示すれば、似たような練習問題を用意できます(絵も生成できます)。

3. スコア【レベル1】向け学習法

【スコアレベル1】においては、以下のよう
な力が求められています。

- 単語やフレーズを使って、身近な状況を説明することができる。
- 基本的な単語や構文(名詞・動詞)を活用することができる。
- 音韻の知識を活用しながら、学校や

家庭の活動、訪れた場所などについて表現することができる。

このような記述からも分かるように、レベル1の学習者は、語彙や構文の基礎的な習得を軸としながら、日常的なテーマで英語を書く経験を積むことが有効です。

3.1. Write a Word

(語彙選択とスペリングのトレーニング)

絵と文の一部を提示し、空欄にふさわしい1語(多くは名詞)を書く練習です。たとえば“Sarah puts her books on her ____.”のような文に対し、“desk,” “shelf”などの語を補います。

目的とねらう効果：

- ・単語(名詞中心)の定着
- ・音と文字の一致を意識したスペリング練習
- ・絵と文章の意味を対応させる文脈理解力の育成
- ・品詞判断(空欄が名詞かどうかを見極める)を通じた文法感覚の習得

この活動は「意味のある語を正しく書く」ために必要な複数の力を統合的に育成します。語彙選択とスペリングの正確さに加え、視覚情報を手がかりに意味を読み取る力が問われることから、初級者にとって自然な英語表現の習得に有効です。

3.2. Build a Sentence

(語順理解と構文力の育成)

絵と言葉を手がかりに、与えられた語を並べ替えて正しい英文を作成します。たとえば、「read / rules / the / children / the」を並べ替え、“The children read the rules.”のように意味のとおり文にします。

目的とねらう効果：

- ・英語の基本語順(SVO)の習得
- ・主語・動詞・目的語の役割認識
- ・文法的に自然な文の構築
- ・絵から意味を読み取り、文章と照合する力

この練習は、英語の語順感覚を体験的に習得させるのに有効な活動です。間違えた場合の自己修正も促され、注意力や構文意識を高める機会となります。descriptorにある「基本的な構文構造」の理解に直結する練習です。

3.3. Edit a Text

(語句選択と文法修正の導入)

文中の誤りや不自然な語を選び、正しい語に置き換える練習です。たとえば、“He go to school.”という文法的に誤りのある文を“He goes to school.”のように修正します。

目的とねらう効果：

- ・文の構成や主語・動詞の一致(S-V一致)への意識付け
- ・適切な語の選択と代替語句の判断力
- ・他者の文を見直すことで、自身の書き方へのフィードバック

この形式は、正しい表現に敏感になる力＝リビジョン力を養います。時間制限を設けることで処理スピードや集中力も強化され、将来的なライティング力の土台づくりにつながります。

絵を活用した語彙・文法の学習は、初級者にとって特に効果的だと思います。また、文を書く前に言ってみる、読み上げて確認するといったことをやることで、音と文字の一致感覚を深められるかもしれません。書く習慣をつけるために、1文日記や短いフレーズからの作文など、定期的に書く機会を設けることが大切です。

4. スコア【レベル2】向け学習法

【スコアレベル2】では、以下のような能力が記述されています。

- 物・場所・日常生活について説明することができる。
- 学校や家庭での身近な物や活動を、一般的な単語を用いて書くことができる。
- 短い簡単な文で、いくつかの文をつなげて物語文や説明文を書くことができる。
- 接続語(and, then, but, first, next, and finally)を使って、文の一貫性を保つことができる。

このことから、単文から短い段落への移行、および語順・語句の一貫性の向上が、レベル2の指導目標となります。

4.1. Picture Story Writing

(絵を見て文をつなげる練習)

一連の絵(3~4コマ)を見て、それぞれの場面について1文ずつ書く練習です。最後に、トランジションワードを使ってそれらをつなげて1つのストーリーに仕上げます。

例：

1. コマ1：“A girl gets up.”
2. コマ2：“She eats breakfast.”
3. コマ3：“She goes to school.”
→ それを“First, she gets up.
Then, she eats breakfast.
Finally, she goes to school.”
と統合。

目的とねらう効果：

- 文と文のつながり(連続性)を意識したライティング

- 接続語の使用習慣の確立
- 日常的な行動に基づく自然な語彙と文法の練習

4.2. Sentence Expansion

(単文を広げて段落へ)

シンプルな英文に、場所・時間・理由などの情報を加えて文を長くする練習です。最終的に2~3文をまとめて短い段落を構成します。

例：

- 基本文：“I play soccer.”
→ “I play soccer after school.”
→ “I play soccer after school with my friends at the park.”

さらに：

- “I play soccer after school. Then, I do my homework.”

目的とねらう効果：

- 詳細を加える力(文の肉付け)
- 単語の使い分け・情報の追加による表現力の向上
- 一文から複数文への移行を自然に行えるようにする

4.3. Connect and Complete

(文の順序づけと補完)

バラバラの短い文を適切な順序に並べ替えたうえで、つながりを良くする語句(and, then, nextなど)を補って完成させる練習です。

例：

- バラバラの文：
 1. “I brush my teeth.”
 2. “I go to bed.”
 3. “I eat dinner.”

- 書き換え例：
“First, I eat dinner. Then, I brush my teeth. Finally, I go to bed.”

目的とねらう効果：

- 接続語の機能理解と使用練習
- 論理的な文の順序感覚
- 物語文・説明文における構成意識の醸成

4.4. Guided Paragraph Writing (フレームを使った段落練習)

定型的な構文の中に自分の情報を当てはめて段落を書く練習です。たとえば、“My favorite activity,” “What I do after school” など、内容と文の型をセットにして書きます。

フレーム例：

- “After school, I usually _____. Then, I _____. Sometimes, I also _____.”

目的とねらう効果：

- 段落構成の基礎(導入・展開・終結)を体験的に学ぶ
- 様々な語彙・構文を柔軟に活用する訓練

- 書くことへの心理的な負担を軽減し、反復練習につなげる

学習上のポイントとして、絵や写真を活用し、具体的な文脈の中で書くということが挙げられます。また、書く前に言う・言ってから書くという段階を意識すると、構文の定着が促されると思います。さらに、文と文の「つながり」に注目し、and, then, but, first, next, finally などの接続語を日常的に使えるようにしていきましょう。

ライティングとしては、「内容＋構成」に分け、正確さだけでなく、情報の順序や流れにも目を向けて振り返ることが大切です。

レベル2の学習者は、「書ける単語が増えた」段階から、「それらを使って簡単な文章をつなぐ」段階へと移行する時期です。そのため、少なくとも語彙・文法・構成の3点を統合した練習が必要です。本稿で紹介した Picture Story Writing や Sentence Expansionなどの練習は、TOEFL Primary® Writingの実際の出題形式にも対応しており、基礎的ライティング力の向上によってスコアの上昇が見込めます。

5. スコア【レベル3】向け学習法

【スコアレベル3】では、以下のような記述がなされています。

- 身近な状況を描写することができる。
- 衣服、体の部位、動物、学用品などの語彙を用いて、日常的な動作や物を説明することができる。
- 日常的な出来事について、いくつか

の詳細を含む短い物語文を作成できる。

- and, then, but, first, next, finally などの単語を用いて、文章の一部に一貫性を持たせることができる。
- ある程度正しい構文・語彙・文法形式で簡単な文や質問を作成できる。

このレベルでは、単文での表現に加え、詳細を加えながら文同士をつなぎ、意味の通ったまとまりを作る構成力が求められます。

5.1. Short Story Writing from Prompts

(状況提示からの物語作成)

「ある日のできごと」や「学校での体験」「友達との活動」など、具体的なテーマに沿って3～5文の物語を書きます。慣れるまで絵・単語リスト・質問など書く際の補助となるものがあるとよいでしょう。

例：

テーマ：“You find a lost dog on your way home. What happens next?”

支援語彙：dog, street, help, happy, home

モデル構成：

- “I found a dog on the street.”
- “It was small and scared.”
- “I took it to my home.”
- “My mom called the animal center.”
- “Finally, the dog went back to its family.”

目的とねらう効果：

- 段落構成(導入・展開・結末)の基礎理解
- 複数の出来事を時間順に並べて表現する力
- 接続語を使って物語の流れを明確にする力の育成

5.2. Sentence Combination Practice

(文のつなぎ方トレーニング)

短い単文2つを、接続語(and, but, then, becauseなど)を用いて1文にまとめる練習です。文意が自然につながるように組み替えます。

例：

- 元の文：
 1. “I wanted to play soccer.”
 2. “It started to rain.”
- 接続例：
 - “I wanted to play soccer, but it started to rain.”

目的とねらう効果：

- 接続語の意味と使い方を実感として理解
- 単文の羅列ではなく、まとまりある文の構成力を育成
- 複雑な文構造へのステップアップとして有効

5.3. Guided Story Sequencing

(並び替えから物語へ)

バラバラになっている文や絵を、時間の流れや出来事の順に並べ替え、その内容を1つの物語として書き直す練習です。

例：

- 絵：1. “Wake up” → 2. “Miss the bus” → 3. “Run to school” → 4. “Arrive late”
- 活動：
 1. 並べ替え(First, then, next, finally)
 2. 各コマについて1文ずつ書く
 3. 最後に全体を読み直して文と文のつながりを調整

目的とねらう効果：

- 物語構成力(起承転結)の基本を身につける
- 自然な展開や出来事の順番を考える構成力
- 接続語の実践的運用力を伸ばす

5.4. Topic Writing with Visual Aids

(視覚支援を用いた段落構成)

「学校での1日」「私のペット」「好きな遊び」など、身近なトピックをもとに、自分の経験や考えを複数文で表現する練習です。写真やイラスト、チェックリストなどの支援教材を活用します。

例：

トピック：“My School Bag”

支援：イラスト＋語彙リスト (notebook, pencil, lunch box など)

文の構成例：

- “I have many things in my school bag.”
- “I have a pencil and a notebook.”
- “I also have a lunch box.”

- “My school bag is heavy, but I like it.”

目的とねらう効果：

- 語彙を活用した自由記述力の向上
- 簡単な事実や意見を根拠とともに書く初歩的なエッセイ力
- 自分の経験を文で表現する自己表現力の育成

「何をしたのか」だけでなく、「誰と」「どこで」「どうだったか」などを付け加えられるようにしましょう。また、文と文のつながりを強調し、接続語の機能と使い分け(因果、対比、時系列など)を繰り返し練習するとよいです。自己評価する際は、「構成」と「一貫性」に注目し、文法ミスに加え、文の並びや話の流れに着目しましょう。

6. スコア【レベル4】向け学習法

【スコアレベル4】は、同テストの最高スコア帯にあたり、学習者が日常的な出来事を英語で詳細かつ一貫性のある短い文章として表現できる段階です。このレベルでは、文法・語彙の正確性はもちろん、接続語や構成要素を適切に用いた段落構成力も重要です。

スコアレベル4では、以下のような記述があります。

- 詳細を含む短くて一貫性のある文章を作成し、ほぼ正確な言語を使用することができる。
- 日常の幅広い行動や物体を説明し、語彙の知識を活用することができる。
- and, then, but, first, next, finally, after などの単語を活用して、全体

の一貫性を維持することができる。

- 正しい構文、単語の選択、文法形式、および適切な大文字と句読点を使用するほとんどの文を使って単純な文と複雑な文を構築することができる。

このレベルでは、単なる出来事の羅列ではなく、論理的構成に基づいたまとまりある短い文章を作成できるようにすることが求められます。

6.1. Structured Paragraph Writing

(段落構成を意識したライティング)

導入・展開・結末の3部構成を明確にしたテンプレートを用いて、身近なテーマについてまとまりある段落を書く練習です。

例：

トピック：“My Favorite Weekend Activity”

テンプレート：

- ・導入：“I like to spend my weekends doing fun things.”
- ・展開：“On Saturday, I go to the park with my family. After that, we eat lunch together.”
- ・結末：“I always enjoy my weekends because I can relax and have fun.”

目的とねらう効果：

- ・一貫性を持った文章構成の定着
- ・過去・現在・未来の時間的接続の運用

用力強化

- ・理由や感情を含んだ個人的表現の導入

6.2. Narrative Expansion

(短い物語を広げる練習)

3～4文の短い物語をもとに、詳細情報(登場人物、場所、気持ち、理由など)を加えて発展的に書き直す練習です。

例：

元の文：“Tom saw a cat. He gave it some food. The cat followed him.”

拡張例：“One cold morning, Tom saw a small, hungry cat near his house. He gave it some food from his lunch. After that, the cat followed him all the way to school. Tom felt happy to help the cat.”

目的とねらう効果：

- ・詳細描写力の向上(when, where, why, how の追加)
- ・「短文から段落」への発展的ライティング力の養成
- ・登場人物の行動・感情表現を組み込む練習

6.3. Connectors in Context

(接続語の実践的活用)

指定された複数の接続語(first, next, after that, finally, but, because など)を使用して、既存の文を意味的に結びつける練習です。

例：

- ・指定語をすべて使って、以下の文を自然に再構成：
 - ・ “I got up late. I missed the bus. I walked to school. I was tired.”
- ・出力例：
 - ・ “First, I got up late. Then, I missed the bus. After that, I walked to school. Finally, I was very tired.”

目的とねらう効果：

- ・接続語の意味的つながりの理解
- ・文の論理的な流れの組み立て
- ・書く前に全体構成をイメージする力の養成

6.4. Functional Writing

(目的を持った実用文練習)

メッセージ、招待状、意見文など、目的を持った短い実用的な文を書く練習です。形式や目的に応じた表現の使い分けを学びます。

例：

課題：「友だちに、週末のイベントに誘うメッセージを書く」

構成例：

Hi Emma,

I hope you are well. I want to invite you to a picnic this Saturday. We will meet at 11 a.m. in the park. Please let me know if you can come.

See you soon!

From, Mia

目的とねらう効果：

- ・コミュニケーション目的を意識した表現
- ・フォーマットに合った自然な英語の使い方
- ・実社会につながる英語表現の基礎力養成

「段落」としての完成を重視しましょう。文の正確さに加え、「導入→展開→結末」の自然な流れを大切にします。その際、接続語・表現のレパートリーを増やします。単調にならないように、様々な接続語の言

い換えや、文のバリエーションを導入しましょう。

また、「書く前の計画」を取り入れるとよいです。ライティング前に「いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どうしたか」を考えることで、内容の充実を図ります。

レベル4では、単文の正確さを超えた情報の展開と構成力が重要となります。本稿で紹介したStructured Paragraph WritingやNarrative Expansionは、まさにその力を育てるために有効な練習であり、次のステップであるTOEFL Junior® Writingや高等学校、大学段階のアカデミック・ライティングにもつながる素地を形成するものです。

7. 学校での授業との関連

TOEFL Primary® Writingで問われているのは、英語で「自分の考えや気持ちを、簡単な文で正しく伝える力」です。この力は、特別な試験対策を通じて急に身につくものではなく、日々の学校の授業をどのように受け、どのように英語に向き合っているかによって、少しずつ育まれていくものです。

たとえば、授業で学ぶ基本的な文法や語順の知識は、ライティングにおいて最も重要な土台となります。「主語＋動詞＋目的語」という基本的な語順、動詞の形の変化、大文字やピリオドの使い方などは、どれも実際に文を書く際に欠かせない要素です。板書された例文や教科書のダイアログを丁寧に見直すこと、なぜその語順になるのかを自分で考えてみることは、英文を「読む」だけでなく「書く」力にもつながって

いきます。

また、授業中に取り扱われる単語や表現を、自分の言いたいことに置き換えて使おうとする意識も重要です。新しい単語を覚えるとき、意味だけでなく、自分でその単語を使った文を1つ書いてみるだけでも、記憶の定着だけでなく、表現力の向上にもつながります。音読や会話練習で耳から入れた表現を、今度は手を使って書いてみることで、より多くの感覚を使って英語を身につけることができます。

さらに、授業の中で行われる簡単なスピーキング活動や振り返りの時間は、自分自身のことを英語で表現する良い機会です。こうした活動を「話す練習」としてだけで終わらせず、「今の自分ならどう書けるか」という視点でとらえ直すことで、書く

力へと発展させることができます。たとえ短い文であっても、自分で考えた内容を英語にしようとする姿勢が、ライティング力の成長には不可欠です。

このように、学校の授業はTOEFL Primary® Writingのための準備として特別に何かをしなくても、日常的に受けている学びそのものが、書く力の養成につながっています。大切なのは、習ったことをそのままにせず、「使える形」に変える意識を持つことです。文法や単語を「書く」とい

う行為を通じて活用する中で、自分の言葉で英語を使えるようになっていきます。TOEFL Primary® Writingの準備とは、まさにこのような「授業の中の英語を、自分の表現に変える力」を育てることにほかなりません。

もちろん、さらなるレベルアップを図るために本稿を用意しましたので、ここまでに紹介した練習法などを家庭学習としてぜひ行ってください。

8. おわりに

TOEFL Primary® Writingは、単なる語彙や文法の知識を試すテストではなく、「英語で伝える力」を段階的かつ丁寧に評価し、次の学びへとつなげてくれる貴重な指標です。書くことに不安を感じている学習者にとっても、視覚的な手がかりや短い文から始められるこのテストは、書くことの楽しさと達成感を感じられる良い機会になるはずです。

本稿では、スコアレベルごとの特徴をもとに、学校や家庭でどのように学習を進めべきかを具体的に示してきました。学校の授業で学んだ単語や構文、表現は、TOEFL Primary® Writingのすべての設問に

通じています。日常の授業にしっかりと取り組み、それを自分の表現として「使ってみる」ことが、ライティング力の確かな向上につながるのです。

また、家庭では、短い日記や絵を使った一文作文など、気軽に始められる活動を通じて、「自分の言葉で英語を書く」ことを習慣化することが効果的です。英語を学ぶ初期段階でライティングに取り組む意義は、言語をより深く理解し、使える力として身につける基礎になるという点にあります。TOEFL Primary® Writingが、英語を使って「自分らしく伝える」第一歩となることを願っています。

著者紹介

篠崎 文哉 (Fumiya Shinozaki)

大阪教育大学 多文化教育系教員養成課程英語教育部門・准教授

ハワイ大学マノア校卒業 (Second Language Studies, 学士)、大阪教育大学大学院教育学研究科修了 (教育学, 修士)、関西学院大学大学院教育学研究科修了 (教育学, 博士)。

大阪教育大学附属天王寺中学校教諭を経て、現職。

専門領域は、英語教育学。近著に、「Integrating face-to-face instruction and asynchronous communication to foster community of inquiry in English learning」 (Language Teaching Research) や「Social presence and other individual differences in asynchronous English communication」 (International Journal of Applied Linguistics) などがある。

中学校英語教科書『NEW CROWN English Series』(三省堂) 編集協力委員。これまでの研究業績やその他の活動については、<https://researchmap.jp/shinozaki.f>を参照。

関連著作レポート

- ☐ 『TOEFL Primary®のスコアレポート活用法の検討ーテストについて知ることを通してー』
- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーリーディング編』
- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーリスニング編』
- ☐ 『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかースピーキング編』